

令和2年2月15日 二宮中学校意見交換会

出席者 14人

1 開会

10:00～

2 挨拶

森教育長

3 説明

- ・永井指導主事 「第1回意見交換会で出された学校配置に関する意見の比較について」
「小中一貫教育のメリット・デメリットについて」

4 意見交換

中里地区住民：今回が最後の説明会ということですが、今後のスケジュールはどうなるのか。

部長：1回目はA案を提案し、地域の関係等で色々なご意見をいただいた。それを踏まえ、教育委員会として、案の方向性を今年度中に絞り込みをしたいと思っていた。ですが意見交換会もあるので、来年度中に方向性を整理し見直したものをまたお示ししたい。ただ、学区の見直しについては丁寧にしていかなくてはならないので、それとは別に、計画案としては来年度中位には方向性をまとめるよう動いている。ただ、学区については丁寧にお話をしていきたい。

中里地区住民：計画を立てたら、その計画は進んでしまうのか。

部長：今は計画案をお示しし、ご意見を伺っているところである。小中一貫教育についてはまだ研究しなければいけないが計画が出来れば、それに基づいて進めていくことになる。

中里地区住民：またお話をする機会があるということですか。

部長：説明の仕方は具体的には決めていないが、何らかの形で、またお示し

し皆様のご意見をいただく場はつくります。

釜野地区住民：この意見交換会は保育園のチラシで知ったので、周知に一層力を入れて欲しい。

部長：保育園や幼稚園、小中学校にチラシをお配りし、町の広報誌やホームページにスケジュールを掲載した。ホームページには資料も掲載しましたが、目につきやすいような工夫が必要であることと、取り組み具合も広報で定期的にお知らせできるようにしていきたい。

下町地区住民：広報紙を読むと地域によっては段階的に通う学校が変わるともとれた。それはどうなっているのか。また、今後そこに辿り着くまでのスケジュールは、決まっていますか。

部長：現在、広報でお示ししている当初案のA案は、段階的に小中一貫教育を始め、それと共に学校を統合していくものです。令和4年に一色小・山小・西中ブロックと二宮小・二宮中ブロックで分離型の一貫教育を始め、令和8年に一色小と西中を、令和12年にそこに山小も加え、二宮小・二宮中を一体型にするという段階的に変えていく案でした。ですが山西地区からの意見の多くは、小学校区に一つは学校を残していくF案が進めやすいのではないかとということになった。F案で考えると最短で令和7年に一体型の小中一貫教育校が可能になります。一体型の一貫校にするには時間があるので、分離型でできること、現状でできることをどんどん進めていきたい。スケジュールについては立て直しをして行かなければいけないと思う。

釜野地区住民：A～I案がありますが、最終的にどうやって決めるのですか。

教育長：意見交換会で頂いた意見や教育の方向性を、月に1度開催する教育委員会議で精査をさせていただき、案を考えていく必要があります。完全に一つの案で進行することは出来ないのも、皆様との意見交換をしっかりとした上で、取り組みたいと思う。ただ、意見交換会は本日で最終回なので、3月の教育委員会議でこれまでの総括をさせていただき、来年度に向けて研究、計画をしていきます。デメリット面に関するご意見もいただきましたので、他県で実施している二宮町と同規模の小中一貫教育校の学校視察や勉強会も開き、計画を固めていきたいと思う。一方で、小中一貫教育を

行うためのカリキュラムについても研究を進め、最短で令和7年度に行うことの道筋も考えていく。

二宮地区住民：人口減少で一体化はやむを得ない。また新設で学校を作るのではなく既存のものを使うというのが皆さんの合意のところと思う。スケジュール感があると分かりやすいのではないかなと思う。それから今始まっているPTAやコミュニティの改革の見直しの中でコミュニティ・スクール化していくと同じ地域で同じ学校だと、保護者やPTA側から見てもやりやすいと思います。

中里地区住民：若い方が参加されていないのが気になりますし、一貫校を作る前提の資料に混乱しました。加えて、先生方がカリキュラムの研究を進めているようですが、その結果が伝わってきていない。小学校の外国語教育についても、効果があったのか分からない。それから発達段階の観点から、小中一貫よりも将来のことを考えられる中高一貫の方が、まだ良いのではないかなと思う。教師の準備も出来ているのか気になりますので、小中一貫教育について話す土台をもっと前に戻していただきたい。一貫校ありきの話ではなく、子ども達のための教育を、若い方たちも含めて考えていきたい。コミュニティの話をされていたが、子どもは地域の中で育てたいと思う。学校の規模が大きくなると子どもに目が届きにくくなると思うし、地域との連携が希薄になるのではないかなと思う。学校の規模が大きければ良いとは思わない。今、養護学校の教員をしています、規模が大きくスケジュール等が大変でいろいろな課題がある。小中のメリットがあるかもしれませんが、もっと議論に時間をかけて欲しい。

指導主事：ワーキンググループの活動に関しましては、県の小中一貫教育を導入するガイドラインに沿い、二宮町は英語を重点化していくことになった。中学校籍の先生が小学校3校に行き授業をしたりして小中の先生と一緒に2年間研究をした。授業の内容が格段に良くなっていることは間違いない。来年度に英語が教科化されるので、昨年度に5・6年生の先生に向けてアンケートをとった。6月の時点で不安に感じているが先生が77%であったが2月には23.1%まで減少した。小中の先生が準備をするので負担はありますが、不安感が減っている点は評価されている。なので、どのようなところで小中の先生方の連携に力を入れていくのかが、さらに研究が必要なところだ。

中里地区住民：小学校の先生の研修にも、力を入れてほしい。

教育長：一貫校は同じ学び舎で過ごすことで、他者を思いやる気持ちを育てることに繋がる。二宮町の児童生徒数は年間 50～60 人減少しているので、いずれ全てが単級化になってしまうことは避けられない。そうなったとき二宮の特色として、可能であれば養護学校の個別教育計画を取り入れ、子ども達の 9 年間で丁寧に見とる仕組みづくりをしていかななくてはならない。学級担任制の小学校のシステムは当分変えることは出来ないで、中学校の教員が教科担任として教えることはできても、評価は学級担任が行うので、全ての授業を中学の先生が行うことはできない。TT なので英語の力を見取りをする必要があると思う。カリキュラムづくりのワーキンググループでは、9 年間のカリキュラムをつくったとしたら、それぞれの教科で二宮の町として子どもにどこのところに力を注いで教えるべきかを考えて欲しいと伝えている。公開授業や研究授業もポイントを絞って行って欲しいと伝えている。各グループで研究し、9 年間で二宮らしい子ども達を育てることが出来れば良いと思う。

教育委員：子育て世代の参加については、前回、未就学児の保護者を対象とした会を設けた。

釜野地区住民：説明会に参加し、現状を打破するための教育委員会の挑戦であると捉えることが出来るようになった。ですが先生だけの研究でなく、子どもが一緒になった時にどう反応するかなど自分が受けてきた教育とは違うので不安がある。先進校を見るのは、具体的にどこの先進校を参考にするのか。

教育長：前回までの意見交換会にも不安があるという意見があったが、子ども達が同じようなことをするのであれば、学校ごとの運動会や遠足などを合同の行事として組み、子ども達の横の連携が取れるようなことを依頼している。また、小学生と中学生が共に活動する場面もつくりたい。視察には教育委員がいったが、規模が小さかったので、二宮町と同じ規模のところを探している。現在は川崎、品川を検討している。

二宮地区住民：品川は小中一貫校が良くないということで、止める方向だった。

教育長：現在どこに行くかは決めていないが、そのようなところではデメリット面のお話を伺いたいと思います。

教育委員：京都の大原学院という義務教育学校を、2回視察させていただきました。1度目は校長先生方とディスカッションをし、2度目は子ども達がいる時間帯に行かせていただいた。子ども達にはこのような環境が良いと実感した。この学校は9年間を4・3・2の3つのブロックに分けていて、低学年の3・4年生と高学年の8・9年生を隣り合った教室の配置になっていた。5～7年生は少し離れた配置になっていた。9年生の生徒に話を聞いたところ、小さい子の声は気にならないと返してくれた。日常的に高学年と低学年と一緒に活動させ、低学年のうちから高学年の姿を見せることが大事だと校長先生は話された。毎日見える状態であることが、子ども達にとっては良いことであるという実感した。

二宮地区：その学校の規模はどのくらいか。

教育委員：1クラス10人弱の小規模校である。それが中規模校になった時に、別の問題や良さが出てくると思うので、そのまま二宮町に当てはまることは必ずしも同じにはならないと思う。

下町地区住民：いじめ問題は大きな課題ですが、小中一貫教育で克服できるのか疑問です。その根幹は競争社会にあると考えるが、町内には進学塾が多くある。塾に行かないと良い成績がとれない、そういう状態が学校教育との関わりで良いのかどうか。小中一貫教育を行うことで学力競争や受験戦争だけ勝ち残れば良いというのではなく、コミュニケーション能力や他者への思いやりの心を育てることが出来るのか。また、最初の町の広報で、一貫教育は学力が向上すると強調されていましたが、学力とは何を指しているのでしょうか、とかく全国学力学習状況の結果と比べられる傾向もある。最近、フィンランド教育の記事を読んだが、学力世界一の理由の一つは優秀な先生、二つ目は各生徒に合った学習援助の具体化、子どもの達成感の重視を指針としていて進めている。小中一貫教育を行う中で単級化を防ぐと言われていますが、少人数の教育でも、より子どもと関わりのできる教育と人格形成をしていく上での教育は可能になるのではないかと思った。それから異年齢交流について、中学生になると小学生と関わる機会が少なくなり、果たして上手くいくのか。財政問題については、小中一貫教育は教育予算や教員人数を充実させることができるのか。子ども達のた

めになる教育が、財政の面から見て保証されているかを伺いたい。

教育長：いじめの認知件数は増加している。増加しているのは教員がいじめを見つけることができたという証で、教員が指導方法を変えたことによる。いじめはなくならないので、子どもにいじめということを教え、誰かに相談することを身に着けさせることが課題ではある。教員の人数は限られていて厳しい環境にあり、一人でも多くの教員の目を増やすためにも、小中が連携して、力を注ごうというのは出来ると思う。新しい試みをすることで教員が増員されることがある。だから、いろいろな工夫、研究が必要だと思う。学力については、学習状況調査の結果ではないと思う。子どもの特性を伸ばせる仕組みや、キャリアパスポートという形で丁寧に見とっていったらいいと思う。単級化に関しては、子ども達の人間関係が変わらないことに良い面、悪い面があることは理解している。ただ、同じ町内で一色小学校と二宮小学校の教員数は3倍の差がある。各学校で行う取り組みは同じで、人数の少ない学校では一人の仕事量が多くなってしまう。単級を解消して、なるべく多くの先生を配置して欲しいと要望がある。それらを解消するのに打ち出したのが小中一貫校である。先ほどあったPTA活動も一つに出来るし、工夫することは一杯あるので、小中一貫教育校づくりに推進出来たらいいと思う。

二宮小学校区住民：二宮小学校は学年が上がると専科の先生が付くが、規模の小さい一色小学校はどうなのか。一つの町の中で、教育格差が生まれるのは良くないので、二宮小学校の専科の先生が、他の学校にも行く事が出来ないのか。また一色小学校を単級から複数学級にするのは、教員や子ども達にとってもプラスになるのであれば、財政的に厳しくても、全く考えられないことなのか。もう一つは、施設一体型を前提としているが、中学校を改修する際に小学校における建築基準法に基づいて、階段の高さ等の工事が必要であるのであれば、いずれ一校になることに重きを置くのはどうなのか。大改修をして数十億円かかるのであれば、新設校を建てた方が、財政的にも良いのではないかと思う。最後に、義務教育学校が何故3つではいけないのか。

教育長：学校の先生は法律により職員数が決まっている。今ぎりぎりの人数でやっている中で、学級担任が出張等でいない場合は代わりの先生が学級を見なければならない。学級担任を持たない先生が学級担任の補填をするなどしている。通常職員室には誰かがいなければいけないが、今の職員室

は空の状態である。その中で他の学校で専科の先生が授業を行うなうことは困難である。ただ、英語専科ということで全小学校を回れるようにつくっています。

二宮小学校区住民：現状の教育に差が生まれているのが、どうかと思う。

部長：確かに二宮小学校の方がクラス数は多いが、子どもに対する教育に差が生まれているとは思えない。

二宮小学校区住民：一色小学校にも専科の先生がいるらしいですが、クラスを受け持ってしまう、専科の授業が行えないと聞いたが。

教育長：現状、教員免許を持っている方で、産休等で欠員が出てしまった時の代替に入ってくださる方がいない。他市町でも同様に、教務主任や専科の先生が担任に入ってもらうことがあるようだ。

二宮小学校区住民：そうすると、それに加えて先生が本来受け持つ仕事がありますよね。そのしわ寄せはどうするのか。

教育長：ですので、人事の方で教員を探している。

二宮小学校区住民：それを埋めるために、コミュニティ・スクールを活用できないのですか。やはり免許がないと、教えることができないのか。

教育長：コミュニティ・スクールについては、お願いしている。それから免許がなくとも、ゲストティーチャーという形で手続きをすれば可能で、それをしなくても先生と一緒にいれば可能です。免許がないと単独で教えることはできない。

二宮小学校区住民：規模が大きすぎると、先生方の負担が大きいのと思う。一色小学校を複数クラスにすることで、先生が増員され負担が少なくなり良い効果が生まれるのであれば、町費で出来たらいいと思う。

部長：横浜みたいな大きい市では市として雇用しているところはありますが、町では厳しい。

二宮小学校区住民：一色小学校の規模の小ささを生かし、少人数クラスに特化して色々なことに挑戦できるという特色ある学校をつくり、学区を撤廃するのはどうか。そうなれば、おのずと人数も増えると思う。

部長：学区を撤廃するや特色のある学校づくり一つの方法だと思う。

教育総務課長：階段の蹴上げに関しては、確かに改修が必要で、改修方法については考えている。それならば新設校の方がよいというのは、1,500人規模の新設校をどの場所に造るかが問題である。造る時期が20～30年後であれば、可能ではあると思うが、現段階では厳しい。将来的には考えていかなければならない課題と思う。最後の義務教育学校については、将来的に3校にすることが望ましい。ただ、それをするのには小中の免許を全教員が持っている必要がある。現在の二宮町では小中両方の免許保持者は少ないので難しい。一色小学校だけ先にというのはどうかという意見があったが、丁寧に説明しながら進めないといけないと思う。

二宮小学校区住民：町民の当事者意識が低いので、このままの計画が入ってくると戸惑いが生まれると思う。やはり中学生のテスト期間中に、大勢の小学生に我慢させるのは難しいと思うし、子どもにとってのデメリットになる。それから9年間を見取るとおっしゃいますが、教員は移動があるのでどうなのか。

部長：皆さん長時間に渡ってありがとうございました。具体的にいろいろなご意見をお聞かせいただき本当に参考になりました。意見交換会の2回目は今日で終了で、頂いた意見を丁寧に整理し、なにがしからの形で皆様にお示ししたいと思う。それを踏まえて計画の見直しを準備していき、合わせてスケジュール、過程について分かりやすい形で順次示していきたい。是非引き続きご協力をお願いしたい。本日は長時間にわたってありがとうございました。